

●ちいばす開通記念市民公開講座
開催報告 第2弾

●第14回せんぼ医療感染講習会
開催のお知らせ

●第6回高輪・品川医療セミナー
開催のお知らせ

●第13回地域医療懇話会・懇親会
開催のお知らせ

●新任医師のご紹介



病院理念

私たちは、病に苦しむ人や障害に悩む人に科学的根拠に基づく最善の先進的医療を迅速かつ安全に提供するとともに、人権と個人情報の保護を心がけ、相互信頼に基づく快適な医療の実践に努めます。 せんぼ東京高輪病院

非専門医のための肝臓病入門 その1

せんぼ東京高輪病院
院長



与芝 真彰

2004年に、それまでの30年弱の劇症肝炎やその他の肝疾患の臨床経験に基づいて『肝臓病を悟る』という変わった名前の本を上梓しました。私は一部御存知の方もおられると思いますが、病院の近く高輪1丁目にある松光寺という寺で住職の後継者として育ちました。こういう者達を「仏飯を食（は）んで育った」というのですが、そのためか物事の真理を悟りたいという意欲が強かったと思います。

それまで何冊かの専門書は出版しておりましたが、「悟る」は「家庭の医学」のように単に肝臓病の知識を持つというのではなく、肝臓という臓器の本質を悟り、それに立脚して各種の肝臓病の本質とその治療を解き明かすという自分としては意欲的な内容だったと思っています。

発刊日は新聞の予告で知っていました。当日はちょうど日本肝臓学会の期間中で福岡のビジネスホテルに泊まっていた。そのホテルのそばの書店に出版ホヤホヤの自分の本を見に行っただけですが、平積みされた私の本の隣に当時離婚騒動の渦中の人であった郷ひろみの暴露本がうず高く積まれていました。郷ひろみの本は50万部を売り切ったそうですが、私の本は8,000部で絶版になってしまいました。

それでも「悟る」はかなりの人に読まれました。東大の医局の肝グループの先輩からは「悟るという題なので何を悟ったのかと思って読んだけど大した事は書いてないなあ」と嫌味を言われました。それでも見て下さる人はおられ、ある時突然「かまくら春秋」社の代表の伊藤玄二郎氏（関東学院大教授を兼任）から電

話がかかってきました。伊藤氏は「悟る」を久し振りに読む快書と言われ、それからは主筆の尾崎左永子氏との対談や、私が住職をしている松光寺本堂での伊藤氏との対談を「かまくら春秋」や「星座」に掲載して下さいました。また、この対談は氏の著作『風のかなたに』の中で、数ある対談の中から石原慎太郎、養老猛司、瀬戸内寂聴、平山郁夫氏ら著名人との対談と共に選ばれて収録されています。その後も御縁は続いており、来年には同社から肝臓病について「悟る」の続編が出版される予定であり、また嬉しい事に「肝臓病を悟る」の復刊も話題になっています。

さて、7月23日港区による「ちいばす」の運行開始を記念して当院主催のもと記念講演会を開催しました。この時私がお話した内容が「非専門医のための肝臓病入門」でした。非専門医を対象にしたお話ですので、専門医の間で使われている「業界用語」や常識にはとらわれないようにしました。だからといってレベルを落としたつもりはありませんし、むしろ、肝臓学会のガイドラインやエビデンスにとらわれず、自らの臨床体験の中でこれが本質と思った事、つまり悟った事をお話したつもりです。現在は欧米型のEBM (evidence-based medicine) が大はやりですが、悟るとは断片的事実を普遍化して物事の本質を洞察する能力の意ですからEBMとは対極のものです。

当院の広報誌「うえーぶ」の編集部から内容をかいつまんで記事にするように依頼がありました。次回から数回に分けて掲載する予定です。御期待下さい。



いつも患者さんをご紹介いただきありがとうございます。
整形外科における最近のご紹介症例を報告させていただきます。

【症例】

症例1 肘関節後方脱臼

患者さんは7歳の男の子です。学校で走っていたとき転倒した際に左手をつき受傷しました。近医に受診した結果、左肘関節後方脱臼の診断でシーネ固定され当院に紹介受診となりました。診察時、神経症状もなく麻痺は認めませんでしたが、左肘局所の疼痛、熱感、可動域制限を認めました。単純X線（写真1）では骨傷なく、同日イメージ下で徒手整復術を施行（写真2）しました。整復後、神経症状も認められず、当院リハビリにてスプリントを作成し、外来通院にてリハビリ治療を行い、可動域制限等問題なく回復しました。

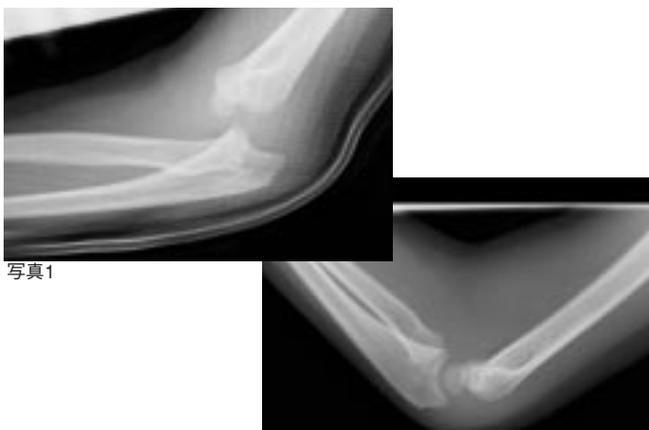


写真1

写真2

症例2 下肢静脈炎

患者さんは52歳の男性です。右下肢痛および腫脹があり近医を受診しました。近医では蜂巣織炎の診断にて保存加療しましたが症状が軽減せず、潰瘍が悪化し、腫脹疼痛の改善がないため当院へ紹介となりました。皮膚の腫脹、潰瘍、熱感、発赤を認めました。採血データでは軽度の炎症反応を認めましたが全身状態は良好でした。単純X線で骨髄炎等の所見は認められませんでした。入院となり蜂巣炎、血栓性静脈炎を疑い下肢MRI（動脈相、静脈相）を施行しました。抗生剤セファメジン点滴静注し創部処置はプロスタグランジン軟膏+ザーネクリームでの対応としました。静脈の一部閉鎖（写真4 →印）などから腫脹がでていたものと考えられます。その後疼痛、潰瘍は改善しましたが腫脹は残存しました。他の症状は軽減を認めた為当院退院となりました。退院後、血管外科での加療が必要と判断いたしまして連携登録機関

である近医の循環器・血管外科専門医を逆紹介いたしました。

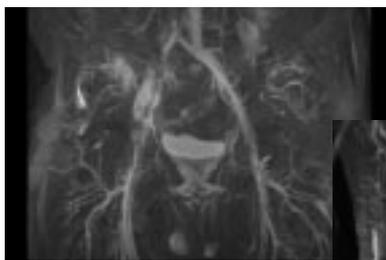


写真3



写真4

症例3 大腿骨転子部骨折

97歳、女性の患者さんです。グループホーム入所中に転倒し、右股関節痛および歩行困難を認め近医クリニックを受診。右大腿骨頸部骨折疑いで紹介されました。レントゲン上で右大腿骨転子部骨折（写真5）を認めました。除痛および歩行目的で観血的整復固定術施行（写真6）。術後翌日から全荷重歩行を開始し、疼痛も改善、合併症も特になく歩行可能となりグループホームに帰宅しました。早期診断早期リハビリで転倒前のADLが可能となっています。

高齢化社会で今後も骨折を認める患者さんが増加されることでしょうか。筋力維持リハビリや定期的な骨密度チェックなどかかりつけの先生にお世話いただき、また、患者家族への骨折予防運動の啓蒙によって骨折のリスクは減ると思われます。今後ともよろしく願いいたします。



写真5



写真6

診療協力部門紹介vol.3 中央検査室

待たせない病院の一役を担う中央検査室

技師長 たか はし ひろし 高橋 弘

“3時間待ちの3分診療”特に診療前検査を外来患者さんに実施している当院においては、我々検査室の取り組み方次第によっては、まだまだこの悪評が代名詞となっている現状に大きく影響を与えかねません。当院中央検査室では、平成9年の病院建替え時にそろえた検査機器20台相当を先ごろ全面的にリニューアルしました。これら更新機器をフル活用した結果報告システムにより“待たせない病院”のイメージづくりのために少しでも貢献できれば、とスタッフ一同がんばっております。

5月の連休明けに、患者サービスの一環として9時開始だった外来診療開始時間を15分繰り上げて8時45分開始としました。これに対応するため、当中央検査室では職員のシフト制の変更や、採血スペースを2人から3人用に拡張することなどで、開始時間に影響を及ぼすことなく従来どおりのサービスを可能にしています。

一般的に病院での検査において、さまざまな生体材料（主に血液、尿）の分析は、機械（分析機）に頼っているのが実状です。今回の検査機器の更新に当たって考慮した点は、それをさらに一歩進めて、分析機を操縦するのも機械で実施することを念頭に置き、検体検査のシステム構築を考えました。一連の業務の流れの中に人の手を介せば介するだけよけいな時間やヒューマンエラーが発生してしまいます。できる限り人間（職員）は、データを管理することだけに従事し、操作には携わらないという徹底した省力化（省人化）にこだわり、高度な最先端機能を持った検体前処理搬送システム（生化学検査ライン写真①②）に大型の分析器4台を接続させ、腎機能・肝機能・循環器関連等の100項目を超えるスクリーニング検査はもちろん、各種腫瘍マーカー、心疾患マーカー・敗血症等の炎症疾患マ-



②生化学検査ライン

カー、内分泌系ホルモン、感染症関連、特異アレルギー関連（ダニ・スギ花粉等）、これら比較的時間を要するとされる検査オーダーもすべて1時間以内で報告できることとなり、以前にも増して“より多くの情報をより速く”診療医師に提供することが可能となっております。

生理機能検査における超音波検査部門においては、昨年、超音波検査ひと筋に20年以上のベテラン専任技師（松本技師）一人を増員し、当日予約枠の患者以外にも診療中に必要となった予約外の患者も積極的に受け入れ、心臓・腹部・下肢血管・頸動脈・甲状腺・腎動脈・泌尿器科領域等の内容の拡大と大幅な件数増に大きく貢献しました。

また、病理診断部門においては、専属病理医のフルタイム勤務により、緊急手術時の術中迅速診断や、病理検査結果報告に対する大幅な時間短縮をはかりました。

これからも、当院の検査オーダーのみにとどまらず、近隣地域の先生方にもお気軽にそして多いにご利用いただける中央検査室であれば幸いに存じます。



①生化学検査ライン



松本技師

ちいばす開通記念市民公開講座 開催報告 第2弾

港区コミュニティバス「ちいばす」の高輪ルート開通を記念して6月から連続で開催してきました「市民公開講座」が8月7日（土）午後2時から行われました。3回目となる今回は慶應義塾大学医学部教授の中川種昭先生による「お口のアンチエイジング」と題した歯科口腔外科の講演でした。歯周病のメカニズムを中心に、合間にはご自身の交遊録を織り交ぜながらの楽しいお話でした。2題目は当院リハビリセンター長・整形外科部長でもある中川副院長の「おけがと救急」という救急に関するお話でした。忠臣蔵の討入事件が現代で発生した場合の救急医療の対応はどうかとの内容を交えたものでした。記録的な暑さの続くなか、40名の皆さまにお集まりいただきありがとうございました。2題ともふだんの生活に密着した話題であり、とても興味深い内容で、皆さまにはご満足いただけたのではないかと思います。「市民公開講座」は地域の皆さまにせんば東京高輪病院をより身近に感じていただくイベントとして今後も

引き続き開催していく予定です。次回の開催に向け、現在新しい企画を策定中ですのでぜひご期待ください。



中川教授



講座の様子

第14回 せんば医療感染講習会のお知らせ

内容はまだ決まっていますが、昨年も10月に新型インフルエンザに関する内容でお話いただいた森兼先生をお招きしての講演です。

日時 平成22年10月15日（金） 19時30分～
場所 外来ホール
演題 「未定」
演者 山形大学医学部准教授 森兼 啓太先生

第6回 高輪・品川医療セミナー 開催のお知らせ

今回は循環器領域をテーマに開催します。

日時 平成22年10月19日（火）19時30分～
場所 外来ホール

当日は座長に高輪高出川循環器内科クリニック 出川院長を迎えて 当院山本循環器内科部長、川合心臓血管外科部長による講演を2題予定しています。

第13回 地域医療懇話会・懇親会 開催のお知らせ

例年開催しています恒例の地域医療懇話会・懇親会の開催日が下記のとおり決定しました。詳細については後ほど改めてご案内申し上げます。ご参加をお待ちしております。

日時 平成22年11月19日（金）
19時20分～ 懇話会 日山管理部長による脳神経外科に関する講演を予定しております
20時00分～ 懇親会
場所 グランドプリンスホテル新高輪
「平安の間」（懇話会場）、「天平の間」（懇親会場）

新任医師のご紹介 平成22年7月付



おおし のりお
大橋 則夫
皮膚科部長

編集後記



暦の上では立秋を過ぎましたが、7月下旬の梅雨明け以降、猛暑日が続いて記録を各地で塗り替えています。連日熱帯夜が続き、高齢者のみならず若い人にも熱中症で倒れる方が出るほど残暑が猛威を振っています。農作物にも少なからず影響が出ているようです。この異常気象はいつまで続くのでしょうか。昭和の時代では考えられなかったことです。とりあえず環境の変化に対応できる体を維持することが、大切な時代になったと感じております。さて、(たぶん)涼しくなる10月からはいろいろなイベントを予定しております。第13回の地域医療懇話会・懇親会も日程が決定いたしました。先生方にはご多忙中とは存じますが、お時間をみてご参加いただければありがたいと存じます。